

## 第6回「情報とシステムの視点からみた組織と社会」研究会 開催報告

研究会主査 川野喜一

- 開催日時 2013年11月21日(木) 18:30~20:30
- 開催場所 法政大学 市ヶ谷キャンパス 市谷田町校舎 T413教室
- 出席者 16名

### ■開催概要

近年、エスノグラフィという手法が情報システムのデザインのために用いられている。日本の企業でも少なからず事例がある。知識や情報の問題を、「活動における知識」に焦点をあてて研究されている池谷先生に、エスノグラフィというものがどのように情報システムのデザインに貢献しているのかについて、特にエスノメソドロジーという立場から行うエスノグラフィの考え方を中心にご講演いただいた。

### ■講演題目及び講演者

「エスノメソドロジーのワーク研究と情報システムのデザイン」  
池谷のぞみ 慶應義塾大学文学部教授

### ■講演概要

1. エスノグラフィとシステムデザイン研究
  - ・社会技術的視点 **socio-technical** の重要性の指摘
  - ・組織における業務と業務の社会性について
  - ・「情報システム」の概念に対する問い: 機械系と人間系をわけて理解するのではなく 人々の活動とその基底にある「情報システム」の社会的性質を同時に理解する。
2. エスノメソドロジーのワーク研究における実践理解
  - ・状況における実践 **situated practice** の理解
  - ・公式手順の現実に限らず、実際の状況において、どのように知識や情報を使いながらいかに活動するかを明らかにする(知識と情報の実践的マネジメント)。
  - ・活動を遂行するのに必要な知識や情報を利用する「しくみ」が実践において依拠する「情報システム」である。
3. 情報システムのデザイン(病院の検査技師の業務を事例に)
  - ・ワーク(実際の業務のなされかた)のデザイン: 複数の業務と複数の視点に基づく最適化。
  - ・知識と情報の実践的マネジメントにおける知識の「しくみ」
  - ・システムデザインにおける要求分析: 通常要求とあたりまえ品質にかかわる要求。

### ■質疑(ディスカッション)

- ・「情報」の定義の議論の必要性。
- ・人の営みをいかに理解するか(社会的文脈とは? 人間系とは?)
- ・情報と知識の使い方のデザインと、データフローとナレッジフローのモデル。
- ・エスノメソドロジーと要求分析の課題。

以上